

# 静かな まなざし だより



- 夏の研修報告
- おやこんぼ(前編)
- 認定こども園訪問
- 子育てフェア(駿豆・遠州地区)
- 特集『親子で楽しむふれあい体操のススメ』(その1)/前橋 明
- 絵本を見る目/フレーベル館
- 街ぶらり/沼津・三島のレポート
- 健康随想(第3回) 歯周疾患の話/齋藤滋子



NO.166  
2012⑫  
WINTER

# 夏の研修報告



## 学校評価研修会

平成24年8月9日、静岡市のグランシップ11階会議ホール「風」において、初めて企画された学校評価研修会が開催されました。

東京学芸大学教授の岩立京子先生、せんりひじり幼稚園理事長の安達譲先生を講師にお招きして、理事長・園長をはじめ、経験年数の多い先生など207名が受講しました。



岩立先生は、「幼稚園等施設における学校評価の意義と課題」というテーマで、学校評価が始まってから10年

で義務化された今、本来の意味に立ち帰って考えるため、「学校評価とは何か」「何のために何をもちたらすのか」といった内容で進められました。学校評価は改革・改善のための手段の一つであること、教育の質向上のためのものであること、子どもの育ち・学びの理解を基にした教員指導の評価等を結果中心ではなく、過程中心で行うこと、園の方向や目標に向けて次への課題を

求めること、各園の独自性の評価が必要であること、ねらい・目標に対して評価すること、保育の質を高める「園力」を高め、より良い園経営をする「園リーダーシップ」が求められ、その役割を果たすことが質の高い保育と園経営に欠かせないことなどを話されました。



安達先生は、「幼稚園の特性を踏まえた学校評価」というテーマで、岩立先生のお話を更に具体的に現場の経験とつなげ、事例を挙げながら分かりやすくお話をされました。学校評価の基本は自己評価であり、自己評価は改善へのプロセスを作り出せる評価でなくてはならないこと、重点目標、評価目標の設定をし、目標に対しての園の独自性を生かした評価と視点が重要であることや、第3者評価を控えて、保育の質についての様々な評価の手法についても話されました。後半は、課題解決のワークシヨップとして、6人のグループで、仮想の幼稚園での会議を開き、

- ①絶対に必要なこと、大切なこと
- ②あったほうがいいこと、いいもの
- ③あってもいいけど、なくてもいいもの
- ④あってはならないこと、もの

を付箋紙に記入し、その思いを話し合い、整理・分類をし、3つのグループで発表し合いました。発表終了時には、大きな拍手が沸き起こりましたが、ワークシヨップから、一番大事なことは何であるかについて、思っているイメージが各々違うこと、自分の意見や若い先生方の言いやすい場をつくること、そして「分かち合い、イメージを共有すること」が大事であると話され、研修会を終りました。

## 初任者宿泊研修会

7月30日・31日の2日間、掛川市のヤマハリゾート「つま恋」に4月から私立幼稚園教諭となった196名が集まりました。

1日目は相田理事長の「幼児理解」の講義に続いて、「1学期を振り返って」というテーマで元玉川大学教授の岩崎婉子先生から「学生時代とのギャップを埋め、新しい自分をつくる。失敗は自分を成長させてくれる」などご自身の経験をもとにお話され、幼児理解には記録が第一とご指導いただきました。

午後は、四天王寺大学准教授の村田夕紀先生の実技「幼児の紙製作」の指導で「保育の中で《作る》活動を楽しむために材料や道具の使い方を子ども



も達には正確に伝え援助していくことが基本で、クラス単位ではなく《協働》で園全体で育てていこう」というお話の後、紙を使って基本の形作りと紙の人形製作を行いました。

夕食後の演習は、KANSAI こども研究所所長の原坂一郎先生の「苦手をブラス思考で」というテーマで手遊びから始まり、『3びきのやぎのからがらどん』の紙芝居が始まると、研修生も話に引き込まれていきました。先生からは「保育者の役割は子ども達を笑顔にすること、悩みがあるが、あこがれの世界に入ったからこそその悩み、プラ入思考でスッキリ解決しよう」とのお話をいただきました。

また、班別集まり、1学期を振り返った反省や嬉しかったこと、困ったことなどを話し合い、解決策を探ったりして内容の濃い時間を過ごしまし



た。  
2日目、東京家政大学教授の細田淳子先生からは「心をつなぐ子どもの歌〜わたしの保育の中から〜」をテーマに、子どもらしいきれいな声で歌うには「口を大きく開けて」と伝え、保育者も一緒に大きな声ではっきり楽しく歌うことが大切とご指導いただきました。

続いて研修副委員長の鈴木正篤先生から「へいのち育む」の活用について」というテーマで「保育者は子ども達が自ら育とうとする力を引き出す役目を担っている」というお話をいただき、最後は富士常葉大学教授の山田辰美先生から「身近な自然を使った遊び、小動物との付き合い方」についての講義で『自然好きな子どもはふるさと大好きへと繋がっていく』というお話で締めくくられました。

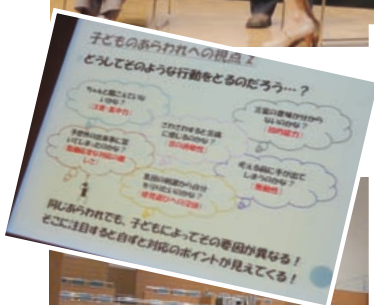
### 心身障がい児教育研修会

8月6日、静岡市のグランシップ（11階）会議ホール「風」において280名が参加し、心身障がい児教育研修会が行われました。

講義1は「発達と発達障がいと愛着について」と題し、国立病院機構天竜病院児童精神科・臨床心理士の高井義文先生から「発達とは人と環境との相互のやりとりの中で生まれてくる。発達とはその機能や構造が複雑になっていくことである」とのお話を頂き、子どもの発達の特徴、理解、課題などについてもお話を伺うことが出来ました。

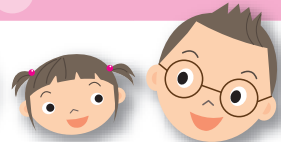
講義2は「子どもの行動の分析とアセスメント」と題し、「浜松市発達相談支援センタールピロ」の柳まや先生から、乳幼児の全体的な発達について知る評価尺度の一つ、KIDDS乳幼児発達スケールルピロTYPE Tによる、DQ（総合発達指数）の算出式を教えてくださいました。参加者が資料に沿って実際に集計、算出し、発達の評価をしてみました。DQによりその子の発達年齢が分かり、目安にしたり、予測ができたことなどを教えて頂きました。

講義3は「保護者面接の方法」と題し、「ルピロ」の所長内山敏先生が講義をされた後、「〇〇な子どもの保護者面接を行ってください」との指示をうけ、参加者を6人のグループに分け、先生役、保護者役を決め、保護者面接のロールプレイが行われ、いろいろなタイプの子どもの保護者になりきって実演しました。この模擬面接終了後、「人と人との意思を通じることの難しさなどがあり、必ずしも先生が全部解決しなくていいですよ。将来に向けて布石を打つことが重要です」とのお話を頂きました。





# おやこんぼ 前編



親子の絆をキュッと深める「おやこんぼ」、「おやこんぼ」と聞いて「何それ?」という園長先生は、県内にはもういらしゃらないと思いますが、確認をしておきましょう。

## 【プロジェクトの背景】

親子の触れ合う時間が減少傾向!? その素晴らしさに、改めて気付いてほしい

「家族の絆の希薄化」は度々話題にのぼるテーマでした。子育て支援の名のもとで、様々な保護者向けサービスが充実し、確かに働きやすくなつたのですが、反面、子ども達が親と触れ合う時間を奪われています。「親子で過ごす時間」は、子ども達の育ちの土台であり、親子にとってもかけがえのない財産です。「そのことに改めて気付いてもらえらるような働きかけが、幼稚園からできないか?」。そんな問題意識からプロジェクトは始まりました。

## 【プロジェクト始動】

「テレビを消しておやこんぼ」をスタート!

プロジェクト名は「おやこんぼ」に決まりました。親子とコンボ(小楽団)をかけた造語です。「親子が主体的に取り組めること」「家庭ごとにアレンジが楽しめること」「やることを指導するのではなく、きっかけを作ること」など、守るべきルールを決め、さっそくメニュー開発に取り組みました。その結果「ノーテレビデー」をおやこんぼ流にア

レンジした取り組みが完成しました。週1回にしようか、いや多すぎる、では月1回ぐらいから・・・ということ、まん中の15日に実施することになりました。もともとノーテレビデー自体は古くからある取り組みです。ただ、なかなか成果が上がっていかない取り組みでもあります。たいていの家庭がテレビを見て楽しんでおり、生活の一部になっていることが多いからです。

## 【具体的なアクション】

子どもが主体的にテレビを消す! この行動を促すことがポイント!

そこでアプローチを変え、「テレビは毎日働き過ぎで疲れている。子ども達の力でテレビにお休みをあげよう」というストーリーを作りました。

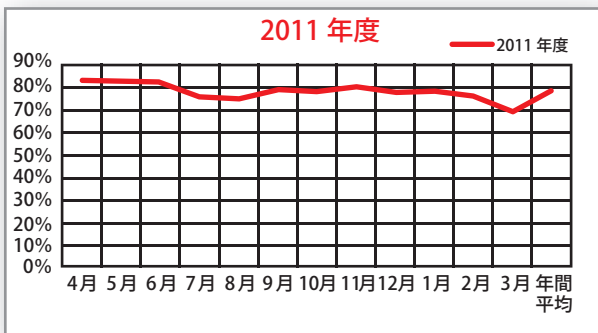
毎月、おやこんぼの前日には幼稚園で紙芝居を読んだり、園内に啓発ポスターを貼り出したり、全職員が手作りバッジを付けたリ、職を立てたりして「明日はおやこんぼ Day」であることを伝えます(職以外は職員自作です)。そして、子ども達にはテレビよりもっと楽しい「親子であそべる時間」が待っていることを楽しみにワクワクして帰宅するのです。

当日は子ども達にはミッションがあります。バンダナをテレビにかけて、お休みのサインをするのです。その後、テレビを見ないことで生まれた時間をどう過ごすかは・・・お父さんお母さんの出番です。

翌日「何をしたか」を「できたかなカード」に書いて登園します。カードにごほうびスタンプがもらえることも一つのモチベーションになるかもしれません。あくまでもこれはきっかけづくり「昨日、お父さんとおやこんぼしたんだ!」と報告してくれる子どもの嬉しそうな顔が、おやこんぼの目的であり、このプロジェクトが長続きしている理由でもあると思います。

このカードには、他にもねらいがあって、一つはおやこんぼの実施率を各園が把握し、さらに協会で市内全園の実施率を集計しています。(図1) これを見ますと、4年目以降に若干落ちたものの、高い実施率を保っていることがわかります。月別で見ますと、8月と3月が落ち

ますが、新学期に新たな気持ちで実施率が上がるのがわかりま



## おやこんぼ実施率 (沼津市私立幼稚園 2カ園)

年間平均													
2008年度 (12月~09年3月)	82%	おやこんぼを開始した年											
2009年度 (4月~10年3月)	82%	2年目 (実質1年目)											
2010年度 (4月~11年3月)	83%	3年目											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
2011年度	83%	83%	82%	76%	75%	79%	78%	80%	78%	78%	76%	69%	78%
2012年度	76%	78%	76%	79%									77%

※2012年は7月まで集計済み

(図1)

# 認定こども園訪問

平成24年7月17日（火）、今年4月に開園したさだじこども園（浜松市南区恩地町）を訪問し、鈴木重道学校法人頭陀寺学園理事長からお話を伺いました。



下などの目的で購入してありました。  
**● 幼保連携型こども園と聞きましたが、幼稚園単独運営との違いはどのようにでしょうか。**  
 連携とはいえ、幼稚園と保育園の職員室は別ですし、生活の流れが違います。職員は幼稚園、保育園それぞれの時間帯で勤務しています。お互い目指すところは同じでも独自の専門性を必要とするため、職種の違いを感じます。こども園になったことで、幼稚園は土曜保育（預かり保育）や夏休み中の預かり保育などを



含め幼稚園を開園することになった点が昨年度までとは違う点です。職員の労働においては基本毎日8時間勤務ですが、幼保共に終業になっても話し合いや準備等で残っているのが現状です。しかし、保育園はシフト制を取り入れているため、長時間保育でも子ども達が困ることなく安全に保育を受けられるよう職員配置に配慮しています。

待機児童対策で浜松市が苦勞しているのを見て、事前の開設相談はしていましたが、2年前に市から開設のゴーサインを頂いたため、具体的な活動はその時から始めました。  
 実際に、2年間と期間が短くて、大変でした。  
**● 保育園建設のために必要な土地の手当てに時間がかかったのではないですか。**  
 土地の一部は昨年に買いましたが、大半は5〜6年ほど前に幼稚園のグラウン

**● 保育園の子どもはこども園でどのように生活していますか。**  
 登園後、保育園で遊びますが、3歳以上の園児は9時になると幼稚園へ移動します。その後、主活動、給食を食べ、2時半になると保育園に戻ってお昼寝、おやつ、いろいろな活動をしています。  
**● 保育園の職員を採用するに当たりどのような点に配慮されましたか。**  
 保育園の定員は60人ですが、現在、0歳児8人、1歳児11人、2歳児11人、3歳児7人、4歳児5人、5歳児7人、計49人が在園しています。  
 保育園勤務の経験があり、信頼できる人をハローワークから採用しました。  
**● 学校法人で幼保両方を経営しているわ**



けですが、**学校法人の会計面ではどうですか。**  
 幼稚園は県より補助金、保育園は市より運営費を頂いていますので、会計は幼稚園と保育園は別になっています。勘定科目においても幼稚園と保育園は違いますが、市からは科目についての説明などないためハンドブックを頼りに手探り状態で、幼稚園会計に当てはめて予算書を作りました。人件費等を考えると、2〜3年はマイナスになるかもしれないと想定していますが、子どもさんを預かった以上、責任を持って運営していきます。  
 ※同園は浜松市南部にあり、回りはきゅうり畑、ビニールハウスや水田など農地で、気持ちの良い風が園庭に入り、こども園（幼稚園、保育園）の子ども達はプールで楽しそうに遊んでいました。





駿豆地区15園は、5月と6月に三島裾野伊東の3会場で未就園の親子を対象とした子育てフェア「あそびのひろば」を開催しました。

5月20日(日)、静岡県総合健康センター(三島市)での「あそびのひろば」は、45組の親子が集まり、「おひさまキッズ」のおのりん先生による運動遊びを親子で楽しんだり、三島の私立幼稚園6園の教諭達が手作りした人形を使ったアトラクションを楽しんだりしました。開催が日曜日ということもあり、父親の参加も多く見られました。

第2回は1カ月後、6月20日(水)に裾野市市民文化センターで行われました。会場には80組の親子が集まり、御殿場裾野長泉の私立幼稚園6園の先生達のリードでミサキキットや手遊び、英語の歌やダンス、もじやもじや体操を行いました。後半は、望月秀さんの指導による親子体操(足腰に軽い負担をかけて運動能力を鍛える体操)

## 子育て フェア in 駿豆

を楽しく学びました。

最後は6月21日(木)、伊東市の野間自由幼稚園を会場に、40組の親子が集まりました。幼稚園の先生と一緒に「朝ごはん体操」を行った後、マッキー先生の親子体操を楽しみました。

3会場には子育て相談のコーナーが設けられ、若いお母様方の子育てに関する相談や入園に関する情報提供などに園長先生方が応じていました。

未就園のお子様を持つ保護者の方に私立幼稚園の役割や活動を知っていただく良い機会となりました。





ペーパーサートのパン屋さん



七夕の短冊を飾ったよ



親子でモシモシ電話



びゅんびゅんロケット製作中!

私立幼稚園振興協会遠州地区(白井祐子地区長15園)の子育てフェアが、7月7日(土)、8日(日)に袋井市のエコパアリーナを会場に開催されました。例年は地区の体育館などで、主に在園児と保護者に焦点を当て、運動あそびやコンサートなどを行ってきましたが、今年は「私立幼稚園をよく知らない人たちに、その存在や良さを伝えたい」と考え、2万人ほどの来場者が見込まれるSBSテレビ・静岡新聞主催のイベント「こどもみらいプロジェクトinエコパ」に参加し、多くの来場者に私立幼稚園をPRしました。

# 子育てフェア in 遠州

アリーナ内には、巨大迷路や新聞プール、ステーション、科学体験、プラネタリウム、海の生物体験など、子ども達が喜ぶイベントが用意されていました。遠州地区も2ブース分を確保し「こどもがまんなかプロジェクト垂れ幕」、今回新調した「遠州地区各園の紹介垂れ幕」を掲げました。さらに各園の紹介パンフレットを並べた上で、県私立幼稚園振興協会のパンフレットを来場者に配り、私立幼稚園を積極的にアピール。これから子ども達の就園を考えている保護者らが、住んでいる地区の園のパンフレ

ットをじっくりと見比べたり、持ち帰ったりしていました。またブース内では15園が交代で出し物を披露。人形劇、ペーパーサート、こまづくり、的当てゲーム、びゅんびゅんロケット、七夕づくり、紙工作、食育の寸劇、ブローチづくり、マジックショー、大型絵本の読み聞かせ、カエルづくり、手あそびなど、各園の先生たちが知恵を絞り、子ども達が大好きなものが目白押しとあって、会場内に詰めかけた多くの親子連れがブースを訪れ、大にぎわいとなりました。「入園するにはどうすればいいの、大変じゃない?」、「保育園や公立の園との違いは?」などの質問に答えられた「子育て相談」コーナーには、日頃の悩みを語る母親の姿も見られ、開催した効果を実感しました。



先生と楽しい手遊び



マジックに見入る子ども達

大好評だったマジックショー



# 親子で楽しむ ふれあい体操の ススメ

## 1. 親子ふれあい体操のススメ

わが国では、子ども達の学力低下や体力低下、心の問題の顕在化が顕著となり、各方面でその対策が論じられ、教育現場では悪戦苦闘しています。

日本の子ども達が抱えるいろいろな問題の改善のためには、ズバリ言って、大人達がつと真剣に「乳幼児期からの子ども本来の生活」を大切にしていくことが必要なのです。夜型の生活を送らせていくのは、眠気やだるさを訴えるのは当然です。睡眠不足だと、注意集中ができません、また、朝食を欠食させていると、イライラ感が高まるのは当たり前です。授業中にじっとしてられず、歩き回っても仕方がありません。

幼いときから、保護者から離れて生活することが多いと、愛情に飢えるのもわかります。親の方も、子どもから離れすぎると、愛情が維持



できなくなり、子を愛おしく思えなくなってしまう。便利さや時間の効率性を重視するあまり、徒歩通園から車通園に変え、親子のふれあいや、歩くという運動量確保の時間が減っていく、コミュニケーションが少なくなり、体力低下や外界環境に対する適応力も低下しています。テレビやビデオの使いすぎも、対人関係能力や言葉の発達を遅らせ、人とのコミュニケーションのとれない子どもにしています。

また、朝ご飯が作れない保護者までできてきました。「朝、親が起きない」「親が食事を作らない。作れない」等の理由で、悩んでいる子どもがいるのです。そんな状態で、日本の子どもの学力向上や体力強化は図れません。キレる子どもや問題行動をとる子どもが現れても不思議ではありません。

ここは、腰を据えて、乳幼児期から親子のふれあいがしっかりもって、かつ、からだにも良い



早稲田大学 教授 / 医学博士  
前橋 明

倉敷市立短期大学教授、米国ミズーリー大学客員研究員、米国バーモント大学客員教授を経て、現在、早稲田大学人間科学学術院教授。

【社会的活動】

インターナショナルすこやかキッズ支援ネットワーク代表、日本幼児体育学会会長、日本食育学術会議会頭、日本幼少児健康教育学会副会長、日本レジャーレクリエーション学会理事

【受賞】

- 1992年 米国ミズーリー州カンサスシティー名誉市民賞受賞
- 1998年 日本保育学会研究奨励賞受賞
- 2002年 日本幼少児健康教育学会功労賞受賞
- 2008年 日本幼少児健康教育学会優秀論文賞受賞
- 2008年 日本保育園保健学会保育保健賞受賞

ことを実践していかねばならないでしょう。

そこで、提案があります。それは、「親子体操」の普及と実践です。

まず、親子で遊んだり、体操をしたりする機会を設けるのです。子どもといっしょに汗をかくてください。自律神経の働きが良くなり、体力向上にもつながります（体力低下の予防策）。子どもに、お父さんやお母さんを独り占めにできる時間をもたせてください。子どもの心の居場所を作ってください（心の問題予防策）。親の方も、子どもの動きを見て、成長を感じ、喜びを感じられることでしょう。他の家族といっしょに、みんなで活動すると、見とりに学習やまねっかが始まります（写真1）。模倣は、知的面の向上のはじめの一步です（学力低下の予防策）。だから、友だちが工夫したおもしろい動きをしていることをしっかりほめて、自信をもたせてく



ださい。子どもにも、動きを考えさせて創造性を培ってください。動くことでお腹がすき、食事が進みます。夜には、心地よい疲れをもたらしてくれ、ぐっすり眠れます。親子体操の実践は、食事や睡眠の問題改善にしっかりとつながっていきます（生活リズムの整調）。

親子体操は、これまで、いろいろなところで取り組まれている内容です。でも、それらをみんなが本気で実践するために、地域や社会が、町や県や国が、本気で動いて大きな健康づくりのムーブメントを作るのです。こんな体験をもたせてもらった子は、きっと勉強や運動にも楽しく取り組んで健康になり、さらに家族や社会の人々とのコミュニケーションがしっかりとれる若者に成長していくはずですよ。子どもの健全育成のためには、急がば回れ、乳幼児期からの生活や運動を通してふれあい体験を大切にしていきたいと思います。

## 2. 親子体操は、いろいろがたくさん！

- ①お金をかけずに、体力づくりができます（体力向上）。
- ②道具や器具は必要なく、からだけ使って運動できます。
- ③子どもが親を独り占めにできます（心の居場所づくり）。
- ④親が子どもの成長を確認できます（子どもの成長チェック）。
- ⑤親子のコミュニケーションづくりに役立ち、言葉の発達につながります（社会性づくり）。
- ⑥遊び方を工夫することで、知的面の成長につながります（学力向上）。



（写真1）親子体操（対人あそび）  
大好きなお母さんといっしょにしていると、安心と居場所づくりになるよ！  
道具はいらないし、お互いの体重を貸し借りして動いて、体力づくりにつながるよ。



（写真2）親子ふれあいあそび教室（早稲田大 学前橋研究室）  
みんなでいっしょに動くと、よい動きやかっこいい動きのまねっこが始まるよ！



笑顔いっぱい幼稚園教諭を目指して 有度幼稚園 出水友香子

小さい頃から目指していた幼稚園教諭となり、5カ月が経ちました。この5カ月は学ぶことが多く、日々反省もしていましたが、充実していました。

私は、年少クラスの副担任を任せました。年少の子ども達にとつては初めての集団生活。広い園庭で思いっきり遊べる期待と、親から離れる不安でいっぱいであることが伝わってきました。しかし、私自身にとつても分からな

いことばかりの毎日でした。私のクラスには入園当初、椅子にじっと座っていることができなくて、部屋を飛び出してしまう子どもがいました。私は主にその二人の子どもと関わっていました。どう声掛けをすれば部屋に戻ってくるのか、どうすれば椅子にじっと座っていただけるかと、試



行錯誤してしまいました。毎日毎日が挑戦で「成功と失敗」の連続でした。しかし、子どもと私の距離が月日を経つごとに徐々に縮まり「一緒に部屋に戻ろう」と伝えると部屋に戻ることが出来たり、次の行動を伝えると自分から部屋に戻り椅子にじっと座っていただけるようになったりと、子ども達の成長した姿を見ることができました。また、大好きな子ども達と日々楽しく関わって仕事をし、幼稚園教諭の仕事の楽しさを今実感しています。

まだまだ失敗や不安もたくさんあると思います。先生方からご指導やアドバイスを頂き、日々勉強し、少しでも先生方のような素晴らしい教師になれるよう一歩ずつ歩んでいきたいと思っています。また「笑顔いっぱい元気いっぱい明るい教師」を心がけ、子ども達と楽しい日々を送っていききたいと思います。

幼稚園教諭になって

くるみ幼稚園

廣川亜美

くるみ幼稚園の教諭となって半年が過ぎようとしています。丁度1年前、私は実習生として15年振りはこの園に来ました。そこには懐かしい園舎や保育室の匂い、大好きなピクニックのエプロン姿の先生など、昔と変わらない園の姿がありました。喜びと共に自分の幼稚園時代の思い出がよみがえり、思い出す度にとても温かい気持ちになりました。「幼稚園の先生になりたい」という幼い頃からの漠然とした夢が、「私もこの園の先生になって、思い出を作っていききたい」というはっきりした目標となりました。



た。1学期は先生方についていくだけで、あつという間に過ぎてしまいました。けれどもその間、子ども達と沢山チャレンジをしてきました。中でも7月の「一泊保育」では、多くのことを学びました。子ども達が川遊び、おぼけ屋敷、花火などを楽しんだ後に、園で宿泊します。2日間子ども達の色々な顔を見ることが出来ました。友達と川で思い切り楽しむ笑顔、おぼけ屋敷が怖いと泣く友達に「僕が守ってあげる！」と励ますたくましい顔など、子ども達の姿や成長を間近で見られ、立ち会うことが出来る幼稚園教諭は、本当に素敵なものだと感じました。

また、無償でお手伝いして下さる保護者の方への感謝の気持ちや大切な子どもを預り教育するという責任の重さも学びました。

2学期が始まり、まだ失敗と反省の毎日ですが、先生方や子ども達からの学びを糧として成長できるよう、今後も頑張っていきます。

4月、私は憧れのエプロンを着て、子ども達と過ごしていましたが、嬉しさと共に不安でいっぱいでした。先輩先生方の保育を見て「自分に出るのだろうか？」という気持ち日々募り、保育の難しさを感じまし



# 保育の窓 コミュニティ

## 子どもとの信頼関係

いまいづみ幼稚園 渡邊 明子

私は、母園であり実習園でもある幼稚園に勤めて3年目になります。1、2年目は年少児の担任を、今年度は初めて年中児の担任をしています。学年が持ち上がりつつあることもあり、4月当初から子ども達は「あきこせんせい」と親しみを呼んでくれました。しかし、年少児と年中児とは、4月の様子が大きく違うことを実感しました。



今年度が始まり2ヶ月半がたった頃、Aくんのお母様から「幼稚園で困った事があっても先生に言わずにいる」という手紙を読みました。それを読んで、「私に話してみよう」という気持ちにならなかったのかな、それとも、私が話しにくくしてしまっているのかな」とAくんの気持ちを考え、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。Aくんはおとなしく、非常にゆっくりペースですが、自分の事は自分で出来る子です。私は、安心して園生活を過ごす上で、一番大切な信頼関係をAくんとの間で築けていたのだからかと考えてみました。

そこで私は、一对一の関わりをより大切にすため、ペースや雰囲気はAくんに合わせることを心がけてみました。また、先輩の先生に相談したりもしました。そうしているうちに、少しずつ会話のキャッチボールが増え、集団でいる時も通じ合っているような気がしてきました。しばらくして、Aくんのお母様から「おうちであきこ先生の話をよく聞きますよ。大好きみたいです」という言葉をいただきました。だんだんと困った事は降園時に話すようになり、今は活動の合間に伝えてくれるようになりました。私に困った事を話すことで、それを解決する手立てを見つけてから、今では表情も豊かになり、友達と遊びを楽しんでいると感じられます。これからは、困った事があつたら、すぐに話せるような関係を築いていきたいと思っています。

Aくんのおかげで、子ども一人ひとりの心の発達にも違いがあること、信頼関係は毎日の積み重ねにより長い時間をかけて築くものであることを改めて学びました。信頼関係を築くためには、子ども達を知らなくてはなりません。共に遊び、寄り添うことを通じて、共感し合い、子ども達が困っているサインを早く見つけることができる保育者になりたい。そのために、保育活動の経験に基づく知恵を、日々に付ける努力をしていきたいと思ふ毎日です。

## 充実した日々

みやしま幼稚園 村松 亜美

憧れの幼稚園教諭になって、早いもので3年目を迎えました。毎日が新鮮で分らないことも多く、「こうすれば良かった」と反省したり、子ども達に声をかけるタイミングや言葉にして伝える難しさに悩むこともありました。でも、いつも傍には大好きな子ども達がいって「せんせい！」と私の後ろについてくる子ども達に日々励まされていきました。今年度は年少組の担任をしています。



日々の保育の中で「早くしなきゃ！」「時間がない！」と気持ち焦り、つい子ども達を急がしてしまうことがあります。そうならないように、私が先を見通して、早めの声掛け、行動をしていくよう気をつけています。限られた時間の中でも子ども達が一人ひとりのペースで進め、楽しむ活動にしていきたいと思っています。

入園当初は「家に帰りたい」と大泣きしたり、部屋から出て行ってしまったり、トイレに行くのを嫌がったり……。日々子ども達の後ろを追いかけていました。しかし、子どもの成長・学ぶ力・パワーは本場にすごい!! 昨日までできなかったことが今日ではできるようになり、毎日成長する子ども達から感動をたくさんもらっています。毎朝大泣きで「幼稚園に行きたくない！」と言っていたAちゃんも、今では「夜になっても、ずーっとみんなと一緒にいたい」と言ってくれるようになりました。その笑顔を見るたびに嬉しく、幸せな気分になります。

落ち着きがなく「できない」とすぐに泣いた子ども達も今ではしっかりと座って、私の目を見ながら話を最後まで聞いてくれるようになりました。私の指示がなくても「今は何をするときなのか」を自分達で考えて行動できるようにになりました。自分のことは何でもできるようにになり、しっかりとってきた反面、まだまだ「甘えん坊で「先生大好き！」と飛び付いてくる子ども達がたまらなく可愛く、この職業に就いて本当に良かったなと思います。保護者の方、職場の先生方、地域の方……。皆さんの人達に支えられ、私も子ども達と一緒に成長することができ、みんなへの感謝の気持ちを忘れずにこれからも一日一日を大切に、笑顔で頑張っていきたいです。

# 月刊保育絵本『キンダーブック』が 子どもたちに育む5つの力

『キンダーブック』は日本で初めての保育絵本として1927年に創刊され、以来、子どもたちの健やかな成長を願って、毎月園にお届けしてまいりました。2013年度で、おかげさまで創刊86年目を迎えます。

『キンダーブック』は、5領域のねらいと日本の幼児教育の父と呼ばれる倉橋惣三（初代キンダーブック編集委員）の考え方を踏まえて、就学までに子どもたちに育みたい5つの力（「生活する力」「支え合う力」「考える力」「伝え合う力」「表現する力」）をもとに、年齢別にねらいをもって企画をしています。

就学までの子どもたちの育ちについて見通しをもちながら、  
子どもたちの未来につながる「生きる力」と「豊かな心」を育てていきます。



キンダーブック **じゃにあ**  
●定価350円(税込)

対象年齢 **2~3歳**



キンダーブック**1**  
●定価380円(税込)

対象年齢 **2~3歳**



キンダーブック**2**  
●定価420円(税込)

対象年齢 **3~4歳**



キンダーブック**3**  
●定価420円(税込)

対象年齢 **4~5歳**



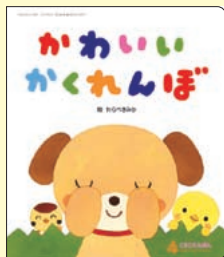
キンダーブック **がくしゅうおあそび**  
●定価430円(税込)

対象年齢 **5歳**



キンダーブック **しぜん**  
●定価460円(税込)

対象年齢 **4~5歳**



キンダーブック **ころころえほん**  
●定価380円(税込)

対象年齢 **123歳**



キンダーブック **キンダーナルヘン**  
●定価380円(税込)

対象年齢 **3~4歳**



キンダーブック **キンダーおはなしえほん**  
●定価380円(税込)

対象年齢 **4~5歳**



キンダーブック **キンダーむかしむかしライブラリー**  
●定価330円(税込)

対象年齢 **4~5歳**

## キンダーブックが5つの力 子どもたちに育む

### 支え合う力

- ・自分でできることは自分でしようとする自立心を育みます。
- ・他者の気持ちを考えたり互いに支え合って協力したりする態度を育み、社会性やコミュニケーション力を養います。
- ・身のまわりのさまざまな人々や働く人に興味をもち、人とかかわる力を育みます。

### 表現する力

- ・さまざまな事物の美しさや不思議さなどに対する豊かな感性を育みます。
- ・絵本を見て感じたことや考えたことを表現する力を養います。
- ・絵本を通してイメージを広げ、創造性を豊かにします。

5領域のねらいと  
倉橋惣三の  
考え方をふまえて  
キンダーブックは  
子どもたちに  
5つの力を  
育てていきます。

### 生活する力

- ・かけがえのない「命」を大切にすることを育みます。
- ・生活に必要な習慣や態度を育み、健康に、安全に、自己肯定感をもって生活する力を養います。
- ・食への興味を育み、健康と食との関係について関心を促します。

### 考える力

- ・身近な環境に親しみ、自然と触れながらさまざまな事象に興味や関心を促します。
- ・身近な環境にかわりながらさまざまな気づきを促し、遊びや生活につなげます。
- ・身近な事物に触れながら、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにします。

### 伝え合う力

- ・自分の気持ちや考えを言葉で表現する力を養います。
- ・人の言葉や話をよく聞く意欲を育て、互いに伝え合うコミュニケーション力を育みます。
- ・日常生活に必要な言葉を理解し、絵本を通してイメージや言葉を豊かにします。

## 子ども達と私の幼稚園生活

リーチエル幼稚園父母の会会長

錦織 佳代

私には子どもが三人います。長男が入園してから、長女、次女と同じ幼稚園の入園・卒園を繰り返し、時には一人時には二人在園しながら、次女が年長になった今年、私の園生活も6年目を迎えました。

就学予定小学校の通学区内であることを第一に考えて選んだ幼稚園でしたが、環境、保育内容、先生方の人柄など様々な点から、今ではこの園を選んで本当に良かったと思っています。とは言え平成19年に始まった我が家の幼稚園生活は、初めてだらけの上に人見知りのひどい長男にてこずり、お世辞にも楽しいスタートではありませんでした。すぐ下に二人の娘もいて、自分の子育てが間違っていたのかと悩んだり、落ち込んだりした時もありました。でも、過ぎてしまえば、全てが笑い話や素敵な思い出。私の大好きな金子みずさんの言葉ですが「みんなちがって、みんないい」そう思えるようになったのは、園や先生方、友人や知人、そして家族、たくさんの方の助けや配慮があったからだと思います。子どもを介して知り合ったお母さん達と愚痴を言ったり、アドバイスし合ったりすることで、一人で悩むこともなくなりました。また、園行事へ参加をしたことによつて、うちの子だけでなく、周囲の子にも目を向ける機会を与えていただけたからだと思っています。

振り返れば、あつという間の6年間。お世話になった園や先生方に少しでも恩返しをしたく、父母の会会長という大役を引き受けることにいたしました。会長と重く受け取らず、私のこの6年の経験を少しでも役に立て、園と保護者と子ども達の良いパイプ役として活動したいと思っています。そして、あと僅かな幼稚園生活、とても寂しいですが、娘や年長児、その保護者や先生方と、たくさんの方の素敵な思い出を作り、私も一緒に卒園したいと思っています。



## 天使達に囲まれて

ちどり幼稚園保護者会会長

曾我 里枝

私には小5、年長、2歳の三人の娘がいます。のんびりおっとりとした長女、行動力があつてしっかり者の次女、ひょうきんでイタズラな三女。同じお腹から生まれた娘でもこうも違うものなのかと、三人目を産んでつくづく感じます。

自分のことよりも他人を優先させる長女は、お友達にも親にも妹達にも皆に優しいです。時々、もつと自分を押し出す積極性が欲しいと、母親としては心配になることもあります。でも友人に囲まれ笑っている彼女を見て、友達への思いやりは本人のもとに返ってくるのだと、そのままが良いのだと教えられました。5歳下の次女は好奇心旺盛で親が感心するほどのしっかり者、姉にお説教をするほどの次女ですが、内弁慶で、幼稚園では家での半分の勢いしか出していません(笑)。さらに3歳下の末娘はまだまだこれからですが上の二人をよく見ているせいか、知恵がつくのも早いように感じます。年の差もあり個性の異なる三姉妹ですが、仲良く遊ぶ姿は母として幸せを感じます。

日々の子育ては大変なことも多いですが三人産んで本当に良かったと、そして二人の妹がいる私もとても幸せに育つたのだとあらためて両親に感謝の気持ち萌芽します。

「親になつて初めて親の気持ち分かる」、妊娠してからこの言葉の意味が分かるように、私もこうして大切に育てられたのだと、親に反抗していた時期を悔やんだりもしました。子育ての毎日が初めての経験であり、学びの場であり、三人目

でも試行錯誤を繰り返しています。好き放題する三姉妹を「この子達は悪魔なのでは」と疑いたくなることもしばしばですが、毎晩彼女たちの寝顔を見つめると、本当に可愛い天使そのものです。ある人に言われた言葉が毎日心の中にあります。「子どもは母親を守るために母となる人を自分で選んでこの世に生まれてきた天使の生まれ変わりなのよ」。この言葉を聞いた時、私の目からなぜか涙が溢れ出ていました。自分の子育てに自信もなく、私が親でこの子達は幸せなのかしら、そんなふうに迷っている時期に『この子達は私が守る』と決めた日から実は守られているのは私の方。娘たちの笑顔で笑っている私がいいます。



# 沼津

第4回「街ぶらり」は、県東部の沼津市、三島市周辺の観光スポットなどを探しに出かけました。

## ◆マルサン書店駅北店

まず同店で、「おやこんぼ」のコーナーを見学しました。



「児童書をどのよう  
に紹介すれば良いか」  
いろいろ工夫され、  
その一環としてやって  
くださっているそうで  
す。「おやこんぼ」は  
静岡県私立幼稚園振  
興協会の事業として  
進めていることもあ  
り、大変感謝でした。

## ◆びゅうお

次に、沼津港大型水門「びゅうお」へ行きました。

大地震により発生する津波が侵入するのを防ぐための扉ですが、地上高30mに幅4mの展望回廊があり、晴れた日の眺望はぐるり360度の絶景づくしで、霊峰富士、狩野川、香貫山、箱根連山が眺められます。

## ◆沼津港深海水族館

「びゅうお」から徒歩5分のところに新たな観光スポットが誕生しました。

# 三島



▶びゅうお

駿河湾は最深部250メートルで、日本一深い湾ですが、そこにすむたくさんの生き物たちやシーラカンスが展示されています。

県の内外から多くの観光客が訪れ、土日は100人以上が入館するそうです。つい、夢中になって見てしまいました。子どもは大喜びしそうです。干物などの買い物も楽しかったです。



▶沼津港深海水族館

## ◆柿田川湧水公園

清水町に入り、湧水で有名な柿田川を見ました。何度か行ったことはありましたが、3ヶ所のスポットで、湧水、アユ、トンボ、鳥などを見ていると、自然の素晴らしさに時間の経つのを忘れてしまいました。

公園内には、湧水を利用したお酒も売っていて、飲むこともできます。また、空のペットボトルを買って、柿田川の水を持ち帰りもできます。湧水を沸かしたコーヒーはなかなか美味ですよ。

## ◆三島大社

最後は、大社にお参りしました。ちょうど行った日は閑散としていましたが、源頼朝が戦勝祈願した、源氏ゆかりの神社です。大社の周辺はきれいに整備されていて、買い物を楽しめます。名物の福太郎餅を買いました。



お昼のお寿司でお腹一杯でしたが「三島コロッケもアジの干物も食べたかったな」と思いつつ、三島を後にしました。



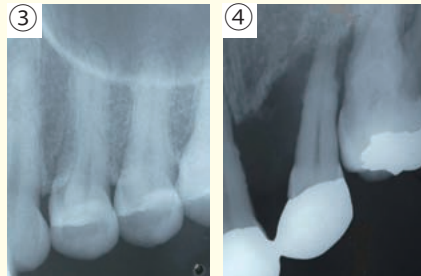
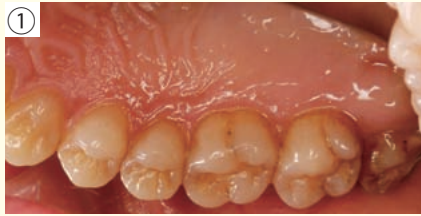
# ぶらり

# 歯周疾患の話 (歯肉炎・歯周病)



サイトウ歯科

院長 齋藤 滋子



①健康な歯肉。歯肉溝は0.5〜2mmほどのポケットになっています。  
 ②始まりは歯肉だけの炎症、歯肉炎です。歯肉溝付近にプラークがたまる、酸素を嫌う嫌気性菌が繁殖してきます。その毒素が作用すると、炎症が起こり、歯肉は腫れ、出血しやすくなり、ポケットは3〜4mmの深さになります。この段階になると歯周ポケットといえます。プラークが石灰化すると歯石となり、除去困難になります。また、歯肉炎になっても正しい磨き方でプラークを除去できると、数日で健康な歯肉に戻りはじめます。(写真5歯肉炎)

③プラークがたまったままですと、歯周ポケットの炎症は進み、歯と歯肉が剥がされ、歯石がたまり、歯槽骨までも破壊されて、歯周病と言われる状態になります。この状態で、TCH(上下歯列接触癖)などで、横に揺さぶる力が加わると歯槽骨の破壊は加速され、次第に歯がグラグラ揺れるようになります。こうした状態を放置すると、歯周病は更に悪化してゆき、歯周ポケットから膿が出たり、歯肉が大きく腫れることを繰り返して、最後は抜けてしまいます。歯周病の初期の段階では、気付かない内に進行することが多いので、サイレント・ディーズ(silent disease)と呼ばれています。

また、歯周病は生活習慣病であり、喫煙や糖尿病、循環器疾患等といった全身状態とも深い関係があるといわれています。ではどういう状態が歯周病なのか、写真を見比べてみてください。

④健康な歯肉(写真1)と歯周病(写真2)を比べてみてください。

成人の歯を失くす原因の大きな割合を占めるのが虫歯と歯周病です。統計でも50歳を過ぎると、歯周病に80%以上の人がかかっているといわれており、歯が抜けてくるのも、そのあたりの年齢から急速に増えていきます。ただし、親知らずも含めて32本の歯がある中で、1本の歯だけに歯周病があつても、その人は立派な歯周病の患者さんということになりますから、歯周病にかかっている人が全て大変な状態(重症)になっているわけではありません。しかし、自覚症状はなくても、成人のかかりの割合が歯周病にかかっていることは事実です。また、子どもにおいては、幼稚園や小学校の歯科検診で歯肉炎が多く見受けられます。今回は、歯周疾患についてのお話です。

⑤健康な歯肉(写真1)と歯周病(写真2)を比べてみてください。

⑥健康な歯肉(写真1)と歯周病(写真2)を比べてみてください。

⑦健康な歯肉(写真1)と歯周病(写真2)を比べてみてください。

⑧健康な歯肉(写真1)と歯周病(写真2)を比べてみてください。

⑨健康な歯肉(写真1)と歯周病(写真2)を比べてみてください。

⑩健康な歯肉(写真1)と歯周病(写真2)を比べてみてください。

⑪健康な歯肉(写真1)と歯周病(写真2)を比べてみてください。

⑫健康な歯肉(写真1)と歯周病(写真2)を比べてみてください。

⑬健康な歯肉(写真1)と歯周病(写真2)を比べてみてください。

⑭健康な歯肉(写真1)と歯周病(写真2)を比べてみてください。

⑮健康な歯肉(写真1)と歯周病(写真2)を比べてみてください。

# ナイスショット

静私幼だより

NO.166

2012.12.15



おーい!やっほー!



でっかいぞ!!なが〜いぞ!!



ほ〜ら!!  
み〜つけた!!



ふわふわの綿が採れたよ!



パッタさんがあそびに来たよ!



おいしいおみそしるにな〜れ!



ぶかぶか



おおきな梨



ポン太の自動販売機!わ〜い!やった〜

## 【編集後記】

先日、街ぶらりの取材で長泉町にある柿田川公園に行ってきました。国道1号線の南に隣接していて、富士山からの地下水が毎日70〜100万トンも湧き出して突然に雄大な清流が現れます。川底には黄緑色のミシマバイカモが清流の中で揺れていてとてもきれい

です。そして、公園の中には何ヶ所も地下水の湧きだしている様子が見られます。私は、その様子をじっと見ていて、心が洗われる気持ちになりました。皆さんも、一度出かけてみてはいかがでしょうか。

広報委員会副委員長 須津幼稚園 後藤正章

(表紙写真/追分幼稚園)

発行人/相田芳久  
編集人/座光寺明  
広報委員会

発行所/静岡県私立幼稚園振興協会  
〒420-0853  
静岡市葵区追手町9番26号  
静岡県私学会館内  
TEL:054(254)6820-FAX:(255)3694

http://www.shizushiyou.or.jp/  
E-mail: office@shizushiyou.or.jp

印刷/(株)三創 レイアウト/イラスト/村松麗子



このQRコードを携帯電話の「QRコードリーダー」で読み込めば、協会HPの携帯サイトにそのままアクセスできます。